

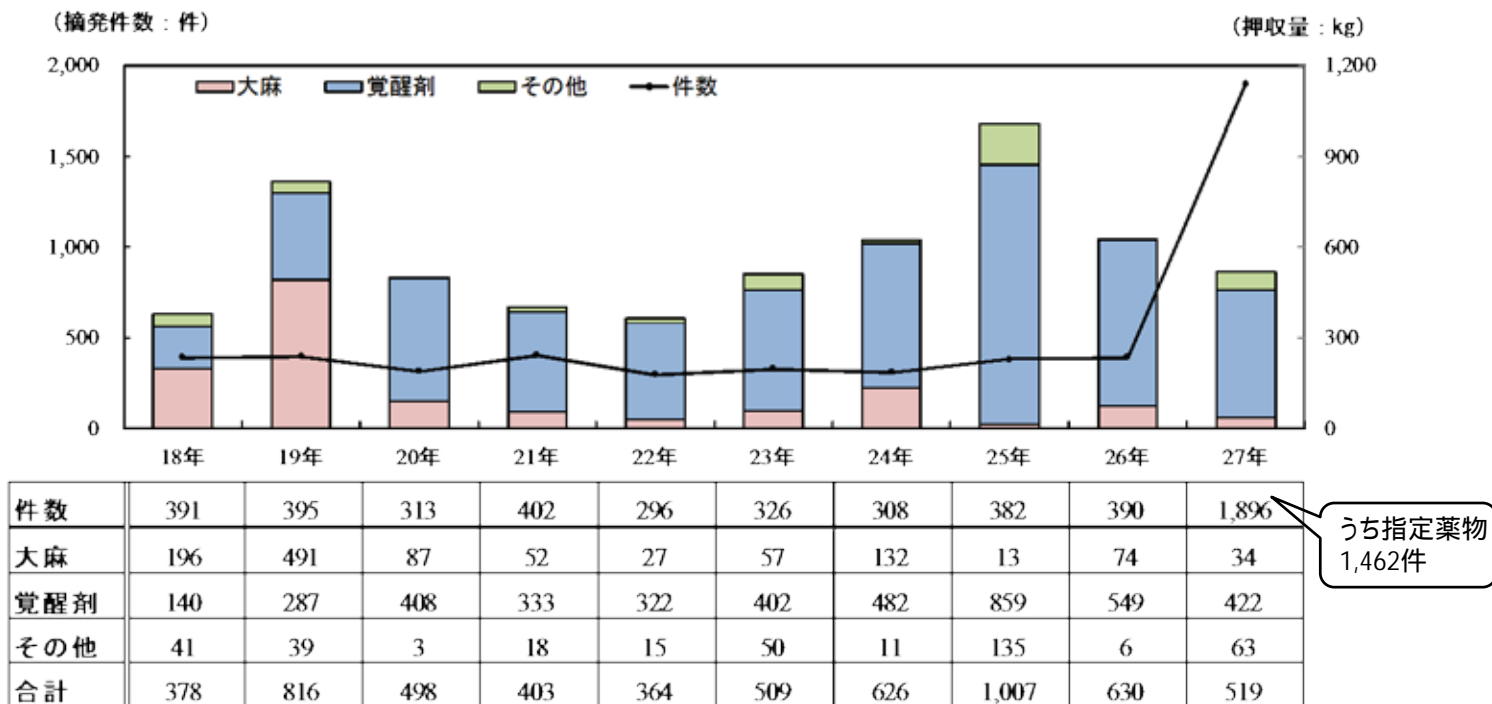
# 財務省・税関における取組状況

平成28年9月9日

財務省関税局

# 不正薬物全体の摘発状況

- 摘発件数は1,896件と過去最高を記録
- 押収量は5年連続で500kg超
- 指定薬物が全体の摘発件数の約8割



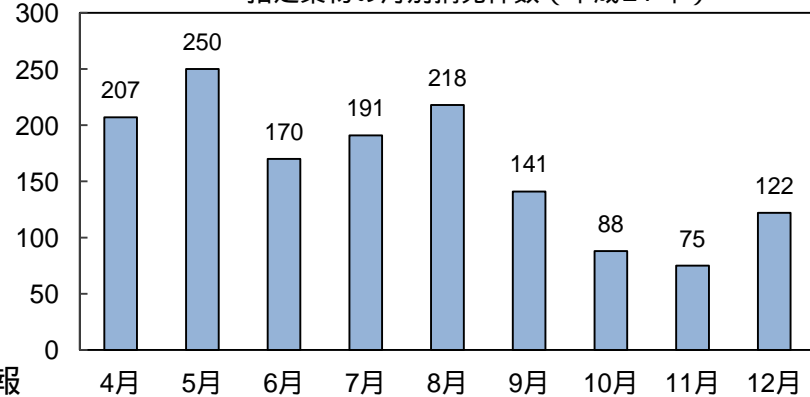
# 指定薬物の摘発

平成27年4月、指定薬物を関税法上の「輸入してはならない貨物」に追加。

摘発件数は1,462件と不正薬物全体の約8割を占め、押収量は約37kgを記録。

8月までは200件前後と高水準で推移するも、9月以降はピーク時の半数以下に。

指定薬物の月別摘発件数（平成27年）

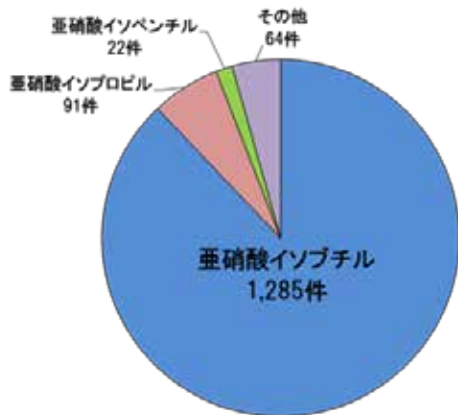


（参考）税関が発見した未規制の危険ドラッグに関する厚生労働省への情報提供により、厚生労働省による迅速な指定薬物への指定に貢献。

## 摘発した主な指定薬物

亜硝酸イソブチルが約9割

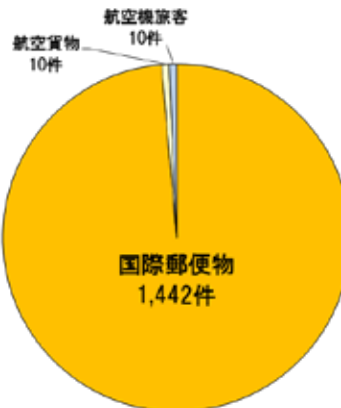
薬種別摘発件数



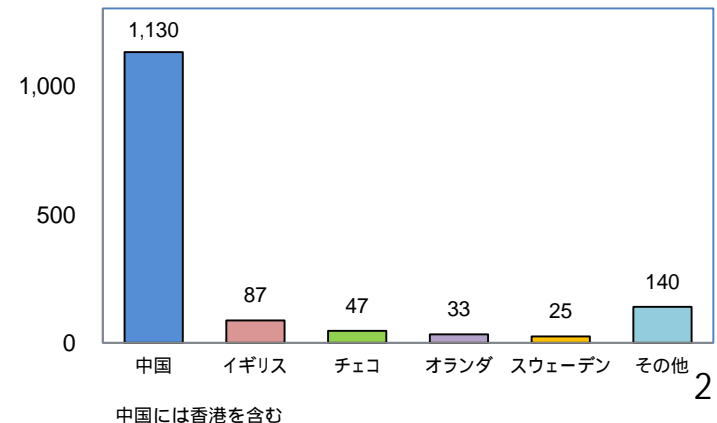
## 密輸形態・仕出地

国際郵便物を利用して中国から密輸入

密輸形態別摘発件数



仕出地別摘発件数



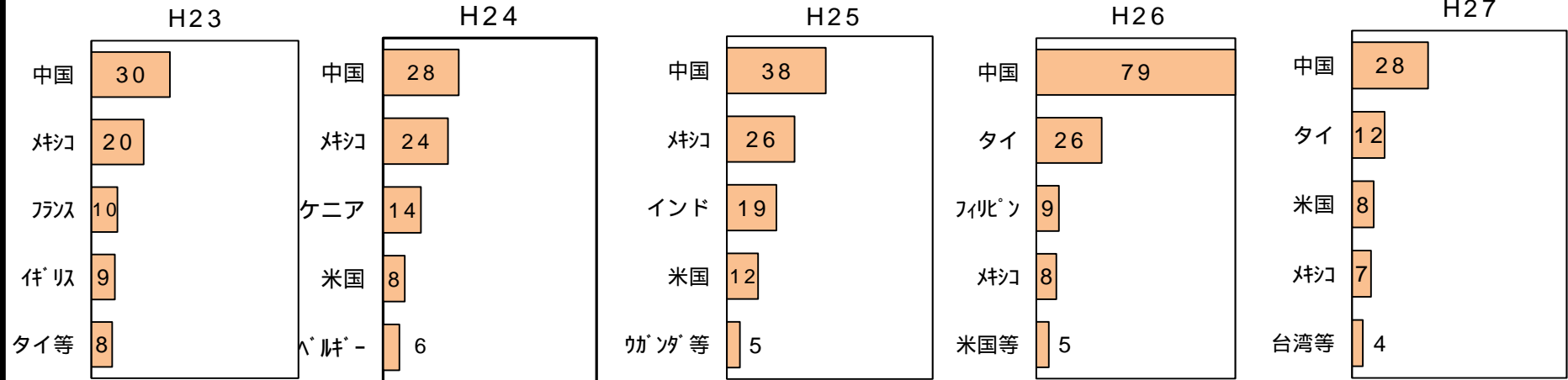
# 覚醒剤の密輸仕出地の特徴

## 摘発件数

**5年連続で中国からの密輸入が最多**

仕出地別摘発件数の推移（上位5ヶ国）

□ 摘発件数（単位：件）

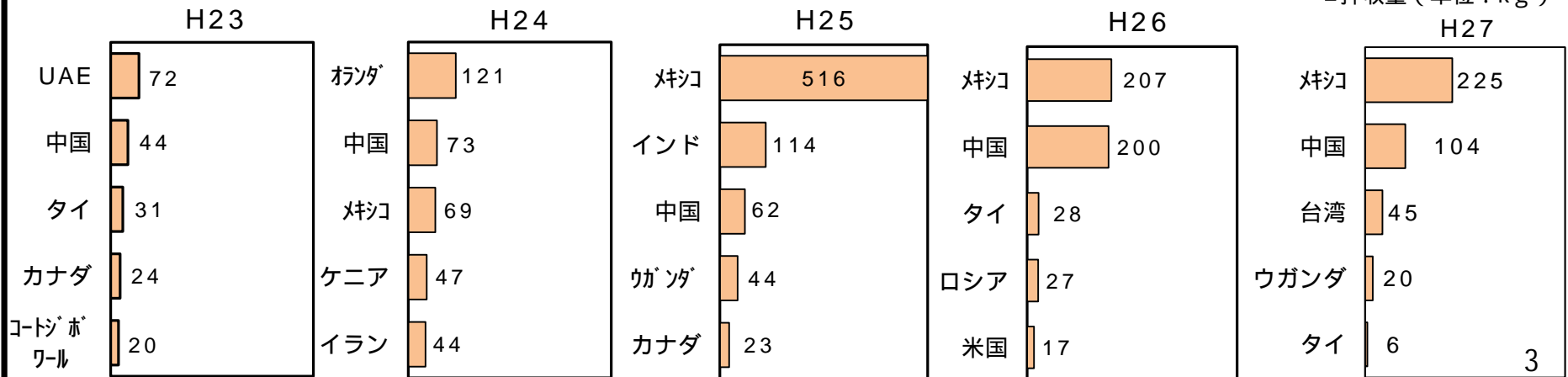


## 押収量

**メキシコと中国で押収量全体の約8割**

仕出地別押収量の推移（上位5ヶ国）

□ 押収量（単位：kg）



# 平成27年の主な摘発事例

## (事例1) 洋酒瓶内に隠匿 < 海上貨物 >

平成27年10月、横浜税関は、メキシコから到着した海上貨物の検査において、液体に溶かしてテキーラ瓶内に隠匿していた**覚醒剤 約171kg**を発見、摘発した。



## (事例2) 金属製タンク内に隠匿 < 航空貨物 >

平成27年3月、東京税関は、メキシコから到着した航空貨物の検査において、金属製タンク5本内に隠匿していた**覚醒剤 約44kg**を発見、摘発した。



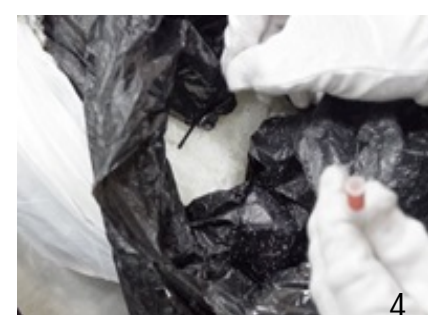
## (事例3) コーヒー袋内に隠匿 < 航空機旅客 >

平成27年11月、東京税関は、ウガンダから羽田空港へ到着したウガンダ人男性の携帯品検査において、スーツケース内に収納のコーヒー袋25袋内に隠匿していた**覚醒剤 約20kg**を発見、摘発した。



## (事例4) 船員がリュックサック内に隠匿 < 船舶乗組員 >

平成27年12月、神戸税関は、水島港に入港したナイジェリア来外国貿易船から下船したナイジェリア人乗組員の携帯品検査において、リュックサック内に隠匿していた**覚醒剤 約6kg**を発見、摘発した。







# 税関相互支援協定 (CMAA: Customs Mutual Assistance Agreement)等の現状

貿易量や不正薬物等の密輸動向等を考慮しながら相手国を特定し、交渉を行ってきており、米・EU・中国等の主要国と締結済。現在、ブラジル及びメキシコとの交渉を進めている。



締結済 (31カ国・地域)

米国、シンガポール、豪州、NZ、韓国、カナダ、中国、マレーシア、タイ、香港、EU、インドネシア、ブルネイ、マカオ、フィリピン、ベトナム、スイス、ロシア、オランダ、イタリア、インド、ペルー、フランス、南ア、イギリス、ドイツ、モンゴル、スペイン、チリ、メキシコ、ノルウェー

交渉中 (2カ国)

ブラジル、メキシコ